

令和8年度 県立内原特別支援学校 自己評価表

目指す学校像	◆安全安心な環境のもと、子どもを主語にして学びあえる学校 ◆みんなが子どもの可能性を信じ、学び続ける学校 ◆保護者・地域の人に開かれ、みんなでつくる学校 ◆子ども・保護者・地域の人・教職員みんなが Well-Being になる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
(成果) ○「誰一人取り残さない教育」を最上位の目標とした、安全安心で主体的に学べる環境づくりの推進 ○主体性を引き出し対話的に学ぶ時間を確保した単元計画の作成・実践による「子どもが主語」の授業実践の浸透 ○教職員の主体的な対話、自らの学びや働き方の見直しによる、組織内での当事者意識と対等な関係性 ○学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入による地域とともに学校の未来を考える Well-Being や理想の学校像についての熟議 ○児童生徒の実態や状況に合わせた、タブレット端末等の効果的な活用の工夫 (課題) ●全ての児童生徒が主体的に学べる環境の実現 ●主体的で対話的な業務遂行の文化(学びの相似形)の醸成を継続 ●教職員が相互に尊重し合い、学び合う職場環境づくり、対話的解決とチーム担任制による、枠にはまらない子への支援 ●学校運営協議会の内容の周知、みんなで学校をつくるメリットの共有 ●教材共有の仕組みの強化、児童生徒の実態に合わせた情報モラル・セキュリティ教育の充実	1 安全安心な教育環境の維持と心身共に健康な児童生徒の育成	① 人権意識を高め、チーム担任制を意識し、対話を基本に子どもが信頼して安心して学べる学校づくりを目指す。 ② いじめ・不登校・虐待等への予防的取組と組織的対応の充実を図る。 ③ 様々な災害を想定し、環境面の充実と児童生徒が主体的に取り組む防災教育の推進を図る。 ④ 保健・食育(摂食指導、食物アレルギー等の対応を含む)やいのちの安全教育を推進 ⑤ ヒヤリハット事例の検証と事故等の未然防止を徹底する。	
	2 これからを生きる子どもに合った学びの充実	① 「対話」を基本に「気づき」や「疑問」を大切にしたい子ども一人一人が主体的な学びを実感できる授業を実践し、学びあう。 ② 「知識・技能を習得」、「思考・判断・表現等を育成」、「学びに向かう力・人間性を涵養」できる場面を効果的に取り入れた単元の工夫 ③ 専門家と連携し、自立活動と各教科等との関連を意識した授業を展開する。 ④ 子どもの主体性を引き出す ICT 機器の有効活用の推進と実態に合わせた情報モラル・セキュリティ教育の充実 ⑤ これからを生きる子どもに合ったキャリア教育の充実と「職業・家庭」「職業」の充実	
	3 共につくる学校・地域社会	① 地域資源を活用した(地域の方が活躍、地域に貢献)体験的な学習の充実を図る。(地域が教室) ② 学びあう、つながる地域交流・学校間交流・居住地校交流等の共同学習を推進する。 ③ 教育・福祉・医療関係機関との連携の強化と協働的な専門性の深化 ④ 子どもたちの学びの様子や学校の取り組みが伝わる情報発信の工夫。	
	4 Well-Being の実現	① 学校・家庭・地域における教育活動全体を通じた Well-Being の実現を目指す。 ② 当事者意識をもった服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成を図る。 ③ 幸せに働ける心理的安全性のある良好な職場環境づくりと、適切なワークライフバランスに向けた働き方改革を推進する。 ④ 大人も子どもも主体的な行動を促し、認め、挑戦する人を応援する支援。失敗したら「やり直し」ができる環境づくり。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	○「誰一人取り残さない教育」を最上位の目標とした安全安心で主体的に学べる環境づくり	○「子どもが主語」の授業づくりを意識し、年間指導計画や単元計画を工夫した学びのアップデートを実践する。 ○子どものニーズや感情に寄り添った、対話と自立活動を重視した学習スタイルを工夫する。(枠にあてはまらない子への支援)	1—①②③ ④⑤ 2—①②③ ④⑤		
教職員の 育成及び 指導・監督	○学びの相似形を意識し、教職員が「対話」を通して、主体的に学び合える文化の醸成	○個別の指導計画や授業づくり等の実務の向上につながる「対話」を重視した研修の機会を設定する。 ○教職員一人ひとりが、学校づくりの当事者として主体的に考え、職務を遂行できるように、学校組織の意図や目的を共有できるようにする。 ○日々の業務に追われすぎることなく、子どもたちの感情や困り感に向き合える体制をつくる。	1—①②③ ④⑤ 2—①②③ ④⑤ 4—①②③ ④		
対外活動	○学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を活用した Well-Being な学校づくり・地域づくりの共有	○学校づくり・地域づくりに関する学校運営協議会での熟議と具体的な教育活動から、教職員・保護者・児童生徒・地域の人との相互のつながりを深め、Well-Being の実現につなげる。 ○学校運営協議会の内容やみんなで学校をつくるメリットを共有できるような周知・発信の仕方を工夫する。	3—①②③ ④ 4—①②③ ④		
コンプライ アンス確保	○お互いを尊重し、気づき合える、心理的安全性のある環境づくり	○教職員間の対話の機会づくりを継続し、お互いを知ることから良好な関係性につなげる。 ○気づきや違和感が諸問題の未然防止につながるよう、同僚から管理職へ相談しやすい雰囲気をつくる。	4—①②③ ④		
働き方 改革	○働きやすく、働きがいのある環境づくり	○職員主体での職場づくりが実感できるように、課題点や改善策などの意見を出し合える機会をつくる。 ○新しい取り組みの意図や目的を共通理解できる手だてを工夫し、協働の喜びを実感できるようにする。	4—①②③ ④		
I C T 活用	○主体的に学ぶための ICT 活用の推進と情報モラル・セキュリティ教育の充実	○クラウド上の教材共有の仕組みを強化し、部をこえての情報共有や活用事例の発信を行う。 ○児童生徒の実態に合わせた情報モラル・セキュリティ教育の機会を意図的に設定し、安全な ICT 機器の活用につなげる。	2—①②③ ④⑤		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない